



BEATA MUSICA TOKIENSIS 18TH CONCERT

ベアータ・ムジカ・トキエンシス 第18回公演

二つの受難曲 ～ ゲジウスの「マタイ」と「ヨハネ」～ レクチャー付きコンサート



バルトロメウス・ゲジウス Bartholomäus Gesius (1555-62 ~1613)

ヨハネ受難曲 Johannes-Passion

マタイ受難曲 Matthaeus-Passion 他

※曲目は予告なく変更することがございます。

ベアータ・ムジカ・トキエンシス Beata Musica Tokiensis

錦木綾・望月万里亜・長谷部千晶・及川豊・田尻健・小笠原美敬

レクチャー 加藤拓未 賛助出演 中村康紀

2026年

3月13日(金)19:00開演(18:30開場)
日本キリスト教団 番町教会

3月15日(日)17:00開演(16:30開場)
日本ホーリネス教団 東京中央教会

※いずれも開演15分前より、加藤拓未氏によるレクチャーがございます。

■チケット(全自由席)

一般 4,500円 (当日 5,000円)

ペア 8,500円 学生 2,500円

※学生券は、当日受付にて学生証をご提示下さい。

※ペア券の取り扱いは前売りのみとなります。

■チケット取扱

オフィスサワイ 090-2243-3210(直通)

E-mail: officesawaimusic@gmail.com

teket(テケト)

3/13 番町教会公演

<https://teket.jp/6691/57435>

3/15 東京中央教会公演

<https://teket.jp/6691/57437>

公演内容に関するお問い合わせ:トキエンシス beatamusicatoki@gmail.com 042-455-1997(公演当日以外)

主催:ベアータ・ムジカ・トキエンシス(公式サイト <http://beatamusicatoki.wix.com/beatamusicatokiensis>)

teket
QRcode



宗教改革の波に揺れるドイツで、16世紀末から17世紀初めまで東ドイツを中心に活躍したバルトロメウス・ゲジウスの「マタイ受難曲」と「ヨハネ受難曲」を、1公演で両方とも演奏しようという、意欲的な本公演！しかも、マタイ受難曲はラテン語、ヨハネ受難曲はドイツ語で作られており、一人の作曲家で2つの言語による受難曲を作曲することは大変珍しく、そのスタイルの違いも興味深いところ。その後のドイツ・バロック音楽にも大きな影響を与えたゲジウスの音楽を、ぜひご堪能ください！

《Beata Musica Tokiensis メンバー紹介》



鏡木 綾(かぶらき あや／ソプラノ)

国立音楽大学声楽科卒業、東京藝術大学大学院古楽科バロック声楽専攻修士課程修了。声楽を稲森雅子、益田道昭、佐竹由美の各氏に、バロック声楽を鈴木美登里、野々下由香里の各氏に、ルネサンス・ポリフォニーやグレゴリオ聖歌の演奏法を花井哲郎氏に師事。ヴォーカル・アンサンブル カペラ、サリクス・カンマーコア、ベアータ・ムジカ・トキエンシス、各メンバー。カルテット・プロヴィゾワール座長。X&Instagram→@ayakaburaki



望月 万里亜(もちづき まりあ／ソプラノ)

大宮光陵高校音楽科卒業。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。これまでに朝倉蒼生、佐々木典子、鈴木美登里の各氏に師事。ルネサンスポリフォニーやバロック期の声楽作品、ロマン派歌曲を得意とし、おもに教会音楽にてソリスト及びアンサンブルメンバーとして出演、録音に参加。バッハ・コレギウム・ジャパン、ベアータ・ムジカ・トキエンシス、各メンバー。BONA MUSICAE MEMBRA(ボナ・ムジケ・メンブラ)主宰。



長谷部 千晶(はせべ ちあき／ソプラノ)

フェリス学院大学音楽学部器楽学科卒。声楽を花井尚美、鈴木美登里、原雅巳、古楽声楽アンサンブルを花井哲郎の各氏に師事。ルネサンスのアカペラアンサンブルをメインに活動する他、ジェスチャー付バロック・オペラにも多数出演、指導アシスタントを務める。ルネサンス期の記譜法である白色計量記譜法を指導。アカペラ編曲も手掛ける。ポリフォニーの楽しさを分かち合う「ポリフォニーを歌って、話して、楽しむ会」主宰。「レ・グラス」「ベアータ・ムジカ・トキエンシス」各メンバー。



及川 豊(おいかわ ゆたか／テノール)

盛岡市出身。岩手大学教育学部及び東京芸術大学音楽学部声楽科を卒業。バッハのカンタータや、シュツ、シャルパンティエ、ヘンデル、モーツァルトの宗教曲を中心にソリストを務める。福音史家としてはバッハのみならず、H.ディストラ、ヘルツォーゲンベルクの受難曲においても好評を得た。グレゴリオ聖歌・中世・ルネサンス期のアンサンブルの分野においても活躍しており、ヴォーカルアンサンブルカペラ、ラ・フォンテヴェルデ、聖グレゴリオの家聖歌隊「ファヴォリート」の多くの演奏会、録音に参加。聖グレゴリオの家宗教音楽研究所合唱講師。



田尻 健(たじり たけし／テノール)

熊本県出身。関西学院大学法学部法律学科卒業。エリザベト音楽大学大学院音楽研究科宗教音楽専攻修士課程修了。フランスのオーベルヴィリエ・ラ・クールヌーヴ地方音楽院にてバロック声楽のDEM(音楽研究資格)取得。ヘンデルの「メサイア」、バッハの「ロ短調ミサ」、モーツァルトの「レクイエム」などのソリストとして様々なコンサートに出演。オペラではヘンデルの「アルチーナ」オロンテ役、ラモーの「プラテ」テスピス役などを演じる。エリザベト音楽大学非常勤講師。



小笠原 美敬(おがさわら よしたか／バス)

東京藝術大学大学院修了。故・小笠原克美、高橋大海、マックス・ファン・エグモント、故・ノーマン・シェラー、ベーター・コーイの各氏に師事。平成14年度文化庁芸術家在外研修員としてドイツで研鑽を積む。国内外で第一線の古楽アンサンブルに参加し、特にアカペラの声楽アンサンブルにおいて、古楽を中心に数多くの演奏会や録音を行う。「ラ・フォンテヴェルデ」、「ベアータ・ムジカ・トキエンシス」各メンバー。声楽アンサンブル・オリエンシス音楽監督、鹿児島ズィング・アカデミー指揮者。



中村 康紀(なかむらやすのり／テノール/賛助出演)

埼玉大学教育学部小学音楽専修、東京芸術大学声楽科卒業。DolceAmaro 結成、時代に埋もれた様々なマドリガーレを発掘、演奏している。Sestetto Vocale, incontro, Ensemble Festino メンバー、Concerto Sotto l'Albero 代表。オペラ全訳や字幕、イタリア詩の翻訳・解説も行う。声楽と伊語を学ぶ教養講座を開講、埼玉大学合唱団ヴォイストレーナー。



加藤 拓未(かとう たくみ／レクチャー)

音楽学者。博士(芸術学)。専門はバッハを中心とするドイツ宗教音楽史。著作に『バッハ・キーワード事典』『バッハ・古楽・チェロ・アンナー・ビルスマは語る』など。NHK-FM「古楽の楽しみ」に解説者としてレギュラー出演中。現在、聖心女子大学講師、明治学院大学キリスト教研究所協力研究員、ルーテル学院大学附属ルター研究所研究員。「バッハ・ゲゼルシャフト東京」代表。合唱指導も行い、研究と実践の両面から宗教音楽の紹介・普及に取り組んでいる。

東京都千代田区六番町7の12
日本キリスト教団 番町教会



東京都新宿区北新宿1の24の12
日本ホーリネス教団 東京中央教会



BEATA MUSICA TOKIENSIS

